

令和５年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校全日制課程

学校ビジョン		未来を拓く人財の育成		今年度の 重点目標	1 主体的な学びの推進 2 豊かな人間性の育成 3 生徒・保護者・地域に信頼される学校 4 働き方改革の推進
中長期目標	1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。 2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。 3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。				

年 度 当 初					中 間 評 価 ・ 最 終 評 価	
評価項目	具体項目	現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 主体的な学びの推進	I C Tを活用したアクティブ・ラーニング等による授業改善と適切な評価	I C Tを活用したアクティブ・ラーニング型授業を各教科で実践するとともに、開講科目ごとのルーブリックを作成してパフォーマンス評価を実施している。 授業アンケート「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の間の、肯定的な回答が93.5%。	・教員の I C T を活用した授業スキルの向上 ・授業アンケート「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の間に、肯定的な回答90%以上	・授業アンケートを全教員が実施し、授業改善を行う。 ・各教科ともルーブリックに基づき、パフォーマンス評価を実行する。 ・I C T 活用に関する教職員研修会を実施する。 ・Chromebookを活用し、課題等の配信を行う。		
	S S H 事業に取り組むことで、科学的探究心・情報発信力、実践力を身につけ、よりよい社会の実現を目指すチャレンジャーを育成	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンペに積極的に打って出ている。 ・総参加者 106件・1131人 ・予選を通過して上位大会へ出場した者 16件・36人	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンクールやコンペへの参加者数 ・総参加者 120件・1200人以上 ・予選を通過して上位大会へ出場する者 20件・50人以上	・「打って出る」の研究と進路目標を結びつける取組みを継続する。 ・外部有識者による中間発表指導やフィールドワーク講習により、探究の質を向上させる。 ・学校設定科目「課題探究基礎」「課題探究応用」「課題探究発展」の内容を改善し、主体的探究活動のさらなる推進を図る。		
	高い目標に向かって努力する生徒を育成する進路指導の充実	・国公立大学合格者233名（うち、現役合格者188名）、難関大学合格者54名となった。 ・東京大学訪問に26名が参加	・国公立大学合格者200名以上（現役合格者170名以上） ・難関大学合格者60名以上	・総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試を適切に活用する。 ・個別学力試験対策の強化（授業・講習） ・難関大学訪問の実施		
2 豊かな人間性の育成	主体性・自律性の育成	・環境整備委員会を中心に、掃除の徹底を行っている。 ・総遅刻者数は延べ291人に対前年度比8%増であった。 ・問題行動件数は1件であった。	・規範意識の高揚 ・主権者意識の高揚 ・T E A S の推進 ・生徒会活動の推進 ・S D G s の推進 ・遅刻者数対前年比減 ・問題行動件数0件	・掃除と挨拶の徹底 ・主権者教育や環境教育など、各種領域教育を実施し、社会参画への態度を育成する。 ・遅刻確認票による遅刻指導の徹底 ・自転車用ヘルメットの着用を徹底する。		
	部活動の推進	全国高校総体飛込競技で優勝するなど、多くの部が活躍した。 中国大会出場の部活動・個人は50 全国大会出場の部活動・個人は24	・学業と部活動の両立 ・運動部活動 県大会ベスト4以上 ・文化部活動 中国ブロック大会以上	・中国大会・全国大会へ出場する部活動を増やすために指導方法の改善と工夫を推奨する。 ・「部活躍報告」を行うことによって、賞賛する機会を設ける。		
	体験的な学びの推進	・グローバルリーダーズギャンパスは13名が受講 ・小川・早原奨学基金による海外研修に各5名、国費高校生留学促進事業によるオーストラリア研修に16名が参加 ・S S H 沖縄研修に25名参加 ・人権教育を各学年で工夫し実施	・人権教育の推進 ・異世代・異文化交流の推進 ・読書活動の充実 ・ボランティア活動への積極的な参加 ・何事にも妥協せず、理想を追求する生徒の育成	・台湾桃園市立陽明高級中学との交流 ・海外研究機関との交流 ・海外研修へ積極的に派遣 ・S S H オーストラリア研修、沖縄研修の実施 ・体験型ワールドカフェ形式の人権教育公開L H R の実施		
3 生徒・保護者・地域に信頼される学校	P T A 活動の充実	P T A の各委員会（総務、人権教育推進、生徒育成、進路）が役員主体で活発に活動している。	保護者と教職員の連携強化による P T A 活動の更なる活性化	P T A のニーズに対応した事業内容の見直しを進める。		
	地域への発信	・積極的な情報発信を行い、学校理解を進めている。 ・学校運営協議会を開催し、地域住民の理解と協力を得た学校運営を行っている。	・積極的な学校情報の発信による地域・保護者への学校理解の促進 ・地域との連携強化や学校運営協議会との適切な連携・協働による地域とともにある学校づくり	・ホームページにより積極的に学校情報を発信する。 ・学校運営協議会を定期的に開催し、熟議をして地域等との連携を深めた学校運営を行う。		
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	教職員の1人あたりの時間外業務時間は令和4年度は13.2時間/月であった。	「県立学校教育職員の勤務時間の上限に関する方針」に定める上限時間を遵守する。	「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守するとともに、声掛け等により個々の業務の効率化を促す。		
	会議の精選	会議・委員会の廃止・統合など業務の効率化を進めている。	協議スキームを徹底し、会議・委員会の開催回数と時間を削減する。	・朝礼後に打合せを行い、業務の効率化を進める。 ・ノー会議月間を設定する。		

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要